

## ～どうすれば安心安全～ に想う

新型コロナウイルスの感染を防ぐため、スーパーマーケットなどのレジ周りで床に「足跡」のような模様を見つける。客は意味を深く考えるでもなくその足跡の位置に立ち、自然と「ソーシャルディスタンス（社会的距離）」の確保が実現する。

こうした事例は行動経済学のナッジ理論に当てはまる。人の選択をより良く導く、ちょっとした工夫のことです。

「ナッジとは本来、肘でつつく、背中をちょっと押す」といった意味です。「人はいつも合理的に、熟慮して行動するわけではない。頭でわかっているでも行動変容につながらない。最適な選択へ、そっと後押しするのがナッジです。」強制せず、知らず知らずに選ぶようにする。そのためには、人の行動の「癖」を利用する。

人は利益より損失に反応し、将来より現在の問題を過大視する。人のためになるルールや社会規範には従いやすい…などと小池智子慶応義塾大学看護医療学部准教授は言う。

(2020年8月6日毎日新聞夕刊より)。

「足跡」が行動経済学のナッジ理論から来ているとは興味深いです

人の行動の「癖」で「足跡」は人の行動が人のためになるルールや社会規範には従いやすい部類に当たるのかしら？

利益より損失に反応し、将来より現在の問題を過大視すると言われることが、人々の今の風潮「今だけ、金だけ、自分だけ。」に当たるのかしら？

私たちは未来を見据えて、お互いに支え支えられる行動をしたいものです。それが大きな意味で安心安全に繋がる事だと思います。

